

令和元年度 学校自己評価システムシート（山村国際高等学校）

| | | |
|---------|---|--|
| 本年度努力目標 | 1 | 学習指導においては、基礎・基本の徹底を図るとともに、応用力の育成に努める。 |
| | 2 | 進路指導においては、一人ひとりの進路に応じた適切な指導と、自己理解に向けた支援に努め、進路実現に努める。 |
| | 3 | 生徒指導においては、基本的生活習慣の確立に努めるとともに、自他を尊重する寛容と協力の精神の育成に努める。 |

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成（8割以上） |
| | B | おおむね達成（6割以上） |
| | C | 変化の兆し（4割以上） |
| | D | 不十分（4割未満） |

| |
|---|
| 第三者委員 5名 |
| ※新型コロナウイルスの関係で予定していた3月の第三者委員会は中止となった。第三者委員の方々には、お送りした学校自己評価・学校評価アンケートの結果を踏まえて評価して頂いた。 |

| 学校自己評価 | | | | | | | |
|--------|--|------|---|---|---|-----|---|
| 年度目標 | | | | 年度評価（3月10日現在） | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | ○生徒の学力差が大きく、中には基礎学力が不足している生徒もいる。その克服のためにも、まず「授業」を大切にさせる。 | 学習指導 | ○一時間一時間の授業に真摯に臨む姿勢を身に付けさせるための工夫・研究を重ねる。 ○「わかる」ということを実感させる。 | ○生徒の私語・居眠りが減り、前向きに授業に取り組む姿勢がうかがえるか。 ○「わかる」ことが達成されたか。 | 以前に比べて授業中の私語や居眠りは減少している。電子黒板やタブレットを利用することで、より積極的に授業に向かう姿勢が見られるようになった。 | B | 電子黒板の導入に加えて、次年度は全生徒がタブレットを持つことになる。「思考力・判断力・表現力」が重視される新テストに対応すべく、今年度以上に電子黒板やタブレットを積極的に授業で活用し、新テストにも対応していかなければならない。 |
| 2 | ○教室環境を整え、生徒一人ひとりが協同してクラス作りに参加する自発性を養成することに努める。 | 学級経営 | ○一人ひとりの役割とその責任を意識づける。 ○他者を常に自己の指標とする協同性を身に付けさせる。 | ○教室は常に整頓されているか。 ○クラスの友人関係は良好か。 ○役割は責任をもって果たされたか。 | 学級経営自体には大きな問題は見られないが、一部の教室・施設において、清掃面での改善すべき箇所が見られた。 | B | 引き続き教室内の整理整頓に努め、学習環境を整えていかなければならない。また、清掃に関しては清掃監督の教員がしっかりと生徒を指導し、その役割の意識付けをしていかなければならない。 |
| 3 | ○基本的生活習慣の確立 ○公平・公正な視点からルールの遵守について身に付けさせなければならない。 | 生徒指導 | ○あいさつ及び他を思いやる心、また言葉づかいの指導を図る。 ○保護者との連携を密にし、しっかりと協力する。 | ○基本的生活習慣は身に付いたか。 ○保護者の理解を得た指導が行われたか。 | 指導処置件数全体としては減少しているが、新たにSNS関連の指導が目につくようになってきた。 | A | SNS関連のトラブルが起これないよう、外部講師による講話など、指導を充実させていく必要がある。また、今後もより多くの生徒が、しっかりとあいさつができるように指導を継続していかなければならない。 |
| 4 | ○目的を明確にし、自己の将来設計をしっかりと考えさせる。 ○自己の現状を知り、一つ上の目標を立てさせる。 ○一人ひとりに懇切に接し進路実現に向ける。 | 進路指導 | ○的確な進路指導の充実。 ○一人ひとりの適性を見極めて指導することで個々の意識を明確にする。 ○数値目標を設定させる。 | ○生徒一人ひとりが自己の進路についてしっかりと考えることができたか。 ○掲げた数値目標は達成できたか。 | 進路相談会などでは、積極的に相談ブースに向かう姿が見られた。コースによって模擬試験等を見直したことで、より数値目標が立てやすくなった。 | B | 大学入学共通テストの開始に伴い、特に3年生に関しては一般入試だけでなく、AO・推薦入試などあらゆる入試形態に対応し、現役合格できるようサポートしなくてはならない。 |
| 5 | ○すべての生徒が学校行事や部活動に積極的に参加するよう全体で取り組み、より学校の活性化を図る。 | 学校生活 | ○すべての生徒が協同して学校行事に参加できるような確かな指導を行う。 ○部活動の活性化と充実した成果をめざして指導する。 | ○生徒は積極的に学校行事や部活に参加できたか。 ○部活動は充実した成果をあげることができたか。 | 生徒数が増えたことで、学校行事および部活動もより活発になっている。関東大会・県大会に出場する部活も増えている。 | A | 戸宮グラウンドの取得など、部活動を行う環境整備は進んでいる。今後もより多くの生徒が学校行事に積極的に参加し、学校生活を楽しめるようバックアップしていかなければならない。 |

| 第三者評価 | |
|--|----|
| 実施日 令和2年 5月2日 | |
| 第三者委員からの意見・要望等 | 評価 |
| 電子黒板やタブレットを導入したことで、生徒がより授業に興味を持ってくれるとよい。授業中の居眠りが完全になくなることは難しいが、引き続きご指導をお願いしたい。 | A |
| この数年、学級経営に対する生徒の満足度は非常に高くなっているようだ。清掃に関しては継続して、指導をお願いしたい。 | A |
| 生徒指導については、ほとんどの項目で保護者からの評価が高くなっている。校則に関しては保護者・生徒が一定の理解を示しており、指導処置件数が減っているのは良いことである。 | A |
| アンケートによると、進路指導については全体的に充実しているが、依然として他の項目に比べると低い結果となっている。これは保護者・生徒の進路に対する意識が高くなっていることの表れだろうか。 | B |
| 体育祭や文化祭など、学校行事に積極的に取り組む生徒が増えているようだ。また、部活動でも学校名を耳にすることが増えた。学校生活全般で満足度が高いことはすばらしいことだ。 | A |